

# おそらく皆さんが知らない音楽の歴史

チェリスト 柏木広樹 氏

## 北海道大学のSDGsの歴史と現在地

北海道大学 理事・副学長 横田 篤 氏

北海道大学は2026年に創基150周年を迎えます。その4年先の2030年をターゲットイヤーとして、“Excellence (科学技術における教育と研究の卓越性)”と“Extension (社会課題の解決やSDGs達成への貢献)”を明確に可視化し、その統合による好循環・エコシステム創成への大学の中期的ビジョンとしてHU VISION 2030を策定しました。

ビジョンを検討する際、「アイデンティティ」の確認が必須です。歴史的背景、地理的な特性の再確認を経て、明確なビジョンを策定することができます。本日は「北海道大学のSDGsの歴史と現在地」と題して、大学創成期から培われたサステナビリティの精神など、150年の歴史に触れながら、本学の現在地について説明します。

札幌農学校は我が国最初の学士の学位を授与する高等教育機関です。「Boys, be ambitious!」のフレーズで知られるクラーク博士(初代教頭)は、札幌キャンパスの農場を整備し、特長あるカリキュラム編成に尽力しました。米国の土地制度に造詣が深い佐藤昌介博士(初代総長)は、広大な農場や演習林の整備に尽力した結果、本学は世界最大の演習林(国土の0.2%)、広大な農場を保有することになります。これらを基本財産として札幌農学校から総合大学としての北海道帝国大学へと昇格するとともに、フィールド資産を活用して、SDGs課題の中核をなすフィールドサイエンスに強みを持つ大学として発展しました。

- 1996年にはキャンパスマスタープランを国立大学として初めて策定しました。
- 2005年には「持続可能な開発」国際戦略を策定しました。
- 2008年にはG8大学サミットを札幌で開催しました。
- 2022年にはTHEインパクトランキングで世界の1406大学中総合10位の評価を受けました。2024年まで5年連続国内1位となり、THEから記念盾を贈呈されました。
- 2023年にはHU VISION 2030を策定しました。また、雨龍研究林と札幌キャンパスが30by30の自然共生サイトとして認定されました。
- 2024年には北海道大学サステナビリティ宣言を策定しました。

サステナビリティを育んできた本学の歴史を踏まえて、寶金総長のリーダーシップにより、サステナビリティやSDGsの概念の大学全体への浸透に取り組み、組織の一体感の醸成と、SDGsの倫理観の浸透を実現します。これにより、大学が総合力を発揮して世界の課題解決に取り組むことで、社会から共感を得てその存在価値を高め、社会的インパクトを高めることを目指しています。

世界の課題解決の一例として、現在、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)により、「フィールドサイエンスを基盤とした地球環境を再生する新たな持続的食料生産システムの構築と展開」に取り組んでいます。世界最大規模の広大な研究フィールド、フィールド科学に関する層の厚い研究人材を活かし、リジェネラティブ(環境再生促進型)持続的食料生産システム研究を行うことで、世界と日本の食料問題解決に貢献していきます。

2026年の創基150周年に向けて、「光は、北から」を合言葉に、次の150年を見据えた創基150周年記念事業(人材育成事業「イノベーション・フロントランナーの育成」、古河講堂の改修・利活用事業、こども本の森事業)を進めるとともに、目標額50億円の記念募金を創設しております。卒業生に加えて、地域住民・企業の皆様からのご支援を心よりお願いします。

詳細は北海道大学創基150周年特設Webサイト (<https://150th.hokudai.ac.jp/>)をご覧ください。



■本日のロータリーソング

四つのテスト

2024-2025 年度国際ロータリーのテーマ

「ロータリーのマジック」

国際ロータリー会長：ステファニー A. アーチック

